

## 予備審査講評

### 熊澤 栄二（くまざわ えいじ） 石川工業高等専門学校准教授

作品総数のテーマ別内訳は、建物単体(14%)、公共空間（路地・水路等）(18%)、都市文脈の再構築(33%)、ランドマーク(5%)、過去の遺産(15%)、特殊課題(15%)となった（※独自集計）。特殊課題は、問題として据えたテーマ自身に力があるためか 2/3 以上が予選通過となった。わけても歩道橋や銭湯、本屋など見落されがちな問題に光を当てた案は着眼点・問題意識など鋭く高く評価したいが、問題の解として「如何に一般性を与えるか」、大きな課題を残した。

### 小津 誠一（こづ せいいち） E.N.N. 代表

学生諸君の時代に対する敏感な感覚が表出したコンペだったと思います。地域活性化、まちづくり、コミュニティデザインなどといった時代の要請とも言えるキーワードに即した提案が多かったことが特徴的でした。同時に、まちのすがたを情景的に表現した作品が見られたことは興味深く思いました。一方で、アイデアコンペならではの大胆な仮説に基づく構想力、精緻で建築的な構築力があまり感じられなかった点は残念でした。

### 戸田 穰（とだ じょう） 金沢工業大学講師

いわゆる歴史的な町並みや下町を対象にし、丹念にリサーチをし都市の文脈を読み込みながら介入していく提案が多かったように思いますが、それだけに論理性が意識されました。であればこそ屋根伏図がほとんどみられなかったのは残念でした。屋根は大事です。西洋建築におけるオーダーと同じように、日本建築における屋根は重要です。屋根がどうかかっているかは歴史的に形成されてきたもので、地形・空間・景観と呼応するのです。

### 吉村 寿博（よしむら としひろ） 吉村寿博建築設計事務所代表

意外にも県外からの応募案が多く、全国各地の特色ある歴史的空間に関する提案を見ることができ、あっという間の楽しい時間を過ごした。予備審査にあたり注目したことは、歴史的空間の把握および提案が自分なりの視点で再解釈・再編集できてるかどうか、ということであった。社会的に歴史的空間と認知されているものを題材として扱う必要はなく、むしろ、見えないものを可視化するようなユニークな着眼点を持つ提案に魅力を感じた。

### 鷲田 めるろ（わしだ めるろ） 金沢 21 世紀美術館キュレーター

特に印象に残った 3 案について。1. 堀を復活し津波に対するやわらかな防御とする案。敵に対する防御だった堀を再解釈し、巨大なコンクリート防波堤への対案としている点がスマート。2. 銭湯の再生案。銭湯を核としたコミュニティ形成を図る際、家族が解体し個人化した社会を前提としている点で無理がない。3. 工場の煙突を緑に置き換える案。レンガの煙突が自然と朽ち、植物が繁ってゆくプロセスを計画に取り込んでいる点が好印象。